

ダイワ・インド株式オープン ーガンジスの恵みー 担当ファンドマネージャーからのメッセージ

2017年10月25日

平素は、「ダイワ・インド株式オープン ーガンジスの恵みー」をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

当ファンドの基準価額は設定日以降、堅調に推移しており、年初来(分配金再投資基準価額ベース)において33.5%上昇(2017年10月23日時点)しています。このたびは担当ファンドマネージャーからのメッセージをお伝えしたいと思います。

《基準価額・純資産の推移》

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

2017年10月23日現在

基準価額	12,821 円
純資産総額	122億円

期間別騰落率

期間	ファンド
1カ月間	+0.3 %
3カ月間	+4.0 %
6カ月間	+13.4 %
1年間	+31.9 %
3年間	+30.6 %
5年間	+118.6 %
年初来	+33.5 %
設定来	+85.4 %

※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。

※基準価額の計算において、運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述のファンドの費用をご覧ください)。

※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応当日までとし、当該ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いた騰落率を表しています。

※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

《分配の推移》

(1万口当たり、税引前)

決算期(年/月)	分配金
第1～4期	合計: 500円
第5期 (12/04)	0円
第6期 (12/10)	0円
第7期 (13/04)	0円
第8期 (13/10)	0円
第9期 (14/04)	300円
第10期 (14/10)	1,450円
第11期 (15/04)	1,250円
第12期 (15/10)	0円
第13期 (16/04)	0円
第14期 (16/10)	0円
第15期 (17/04)	800円
第16期 (17/10)	300円
分配金合計額	設定来: 4,600円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。



当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものです。■当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。■投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。■当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさまの実質的な投資成果を示すものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。■分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒ 大和投資信託 フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

大和投資信託

Daiwa Asset Management

(1)投資に対する考え方と手法（投資哲学／運用ポリシー）

インドの株式市場には約5,000の銘柄が上場しています。その中から投資する企業をどのように探すのか、まず、ご紹介します。投資をするためにはまずその株式が市場で売買できなければなりません、そのため一定以上の売買高がある銘柄が投資対象になります。

インドは高い経済成長をしている国です。したがって、企業も成長するチャンスがそれだけ多いと考えています。私は高い成長が見込まれるグロース株に投資するアプローチをとっていますので、自己資本利益率(ROE)や利益の成長性、またその他の財務関連の指標に着目して投資対象銘柄を絞り込みます。これらの指標の中で今は何を利用するのか、またどの水準を選別の基準とするのかは私の経験からくる読みになってきます。

その時点で基準を満たした銘柄に対しては、ボトムアップアプローチで投資対象を調査していきます。目的は市場平均を大きく上回るリターンを生み出す可能性がある銘柄の発掘です。私はこの地道な調査が市場平均を上回るパフォーマンスの源泉だと信じています。

(2)投資したいと考える企業と現在のポートフォリオ

銘柄調査をする際に私が最も重要だと考えるのは、その企業の今後3年間の利益成長率です。インドの企業では何かアクションをおこしたときにその結果が利益としてあらわれるまで平均して3年程度の期間を要すると感じているからです。

私が投資したいと考える企業には2種類あります。一つは持続可能な高い収益性を持ちかつその見通しがしっかりしている企業です。もう一つは、何かのイベント(戦略の転換、ビジネスリスクの軽減、ビジネスサイクルの転換など)をきっかけに収益にプラスのサプライズが発生しそうな企業です。私はこのどちらかが実現しそうな企業を常に追い求めています。

当ファンドは、規模の分散を図りつつ魅力的な企業に投資をしています。現在は中型株に注目しています。中型株は、一般的に大型株と比べてアナリストのカバーが少ないことからポジティブ・サプライズが期待できますし、今後3年で大型株の仲間入りする企業も出てくる可能性もあります。

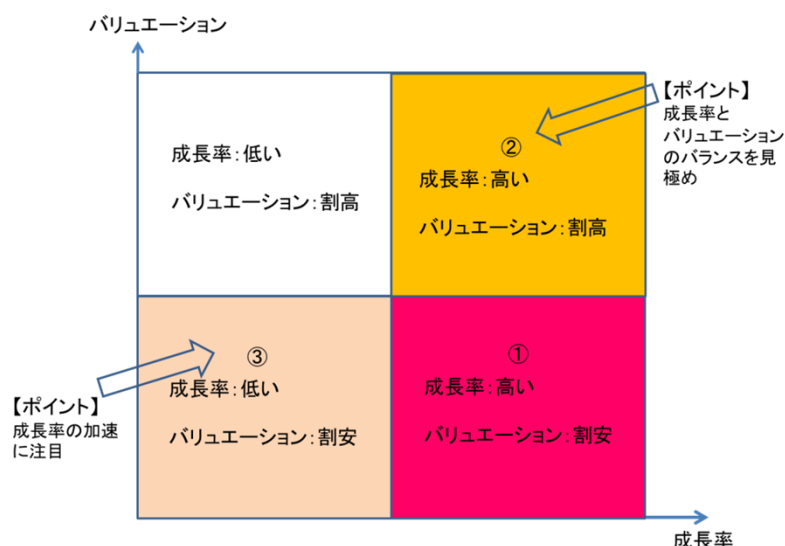
(3) ファンドマネージャーとしての投資の判断

ファンドマネージャーの仕事の難しいところは高い成長が期待できる銘柄が、よい投資先かどうかを見極めるところかもしれません。良い投資先企業を見つけるのは常にチャレンジングな仕事です。ファンドマネージャーは成長率とバリュエーションの両方について考える必要があります。

いつも探しているのはバリュエーション面で割安かつ高い成長率が期待できる銘柄(①)です。次の候補としては高い成長率が期待できるもののバリュエーションが割高な銘柄(②)です。一般的にバリュエーションが割高な銘柄は敬遠される傾向がありますが、バリュエーションの割高さが期待できる成長率と釣り合っていれば投資対象としては魅力的と考えています。

一方で、幅広い投資機会の獲得を目指すという観点からバリュエーションが割安だが現在の成長率見通しが低い銘柄(③)にも注意を向けています。例えば、現在ですとハイテクとヘルスケアのセクターはバリュエーションが割安なものの、成長に疑問を持っておりあまり魅力的だと考えていません。しかし、この2つのセクターについては成長率の回復に注目しています。

ファンドマネージャーが考える投資戦略（イメージ図）



(4) インド株式投資について考えること

インドの一人当たり名目GDP(国内総生産)は2016年時点で1,709米ドルです。これは日本における1969年当時(1,669米ドル)とほぼ同じ水準です。現在のインドは日本の高度経済成長期のレベルで、日本の経済成長パターンから考えるとさらに経済発展する段階にあるといえるでしょう。またインドは10-24歳の若年層の人口が約3.5億人(2014年現在)で今後人口ボーナスを享受する国であることから、高い経済成長率は持続可能と考えられます。

インドでは近年、金融関連の規制緩和、金融リテラシーの向上を通して一般の人々がさまざまな金融商品を手にすることが可能となっています。これまでインドでは金や不動産という実物資産への投資が主流でしたが、昨年の高額紙幣廃止策以降は特に株式を組み入れた投資信託をはじめとした金融商品への資金シフトが加速しています。

経済のファンダメンタルズの持続的な高成長と金融商品への資金シフトと考え合わせますと、今後中長期的にみてインドの株式市場は堅調に推移していくものと考えております。

以上

ダイワ・インド株式オープン – ガンジスの恵み –

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

ファンドの目的・特色

ファンドの目的

- インド企業の株式に投資し、信託財産の中長期的な成長をめざします。

ファンドの特色

1. インド経済の構造変化の中で高い成長が期待できるインド企業の株式^(注)に投資します。
(注)「株式」…DR（預託証券）を含みます。
 - 銘柄の選定にあたっては、中長期的な成長性を判断するため、業界動向、個別企業の競争力、経営戦略、技術力等に着目します。
 - ポートフォリオの構築にあたっては、幅広い投資機会の獲得をめざし、業種、企業規模の分散を図ります。
 2. インド企業の株式の運用の一部は、SBI Funds Management Private Limited の助言を受け、ダイワ・アセット・マネジメント（シンガポール）リミテッドが行ないます。
 3. 当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行ないます。
 - ・マザーファンドは、「ダイワ・プレミア・インド株マザーファンド」です。
- ※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

投資リスク

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。**したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。**

「株価の変動（価格変動リスク・信用リスク）」、「為替変動リスク」、「カントリー・リスク」、「その他（解約申込みに伴うリスク等）」

※新興国には先進国とは異なる新興国市場のリスクなどがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。

ダイワ・インド株式オープン – ガンジスの恵み –

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 <上限>3.24%(税抜3.0%)	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	ありません。	—
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
運用管理費用 (信託報酬)	年率 1.8144% (税抜 1.68%)	運用管理費用の総額は、毎日、信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。
その他の費用・ 手数料	(注)	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

(注)「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。
※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせください。
※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。
※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。

販売会社:

大和証券
Daiwa Securities

商号等 大和証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第108号
加入協会 日本証券業協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

設定・運用:

大和投資信託
Daiwa Asset Management

商号等 大和証券投資信託委託株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号
加入協会 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会